

倉吉市学校教育に係るご意見（倉吉市学校教育審議会・令和4年3月）

1	倉吉市の教育方針と重点施策に関すること
	<p>・コロナ禍が3年目に入りました。経過した2年間で学校と地域に距離ができ、子どもたちが地域の活動から離れてしまったように思います。開かれた学校を取り戻す工夫をしていきましょう。</p> <p>・PTAの研修もなかなか実施困難だったようですが、with コロナでの開催についても、この二年間で学ばれたこともあるでしょうから、工夫してできる限り実施していくことが必要だと思います。保護者の教育力の向上、我が子も他人の子もみんな育てようという機運を醸成することが必要だと思います。</p>
	<p>①右上の「将来像・教育・文化」の欄について「倉吉市まち・ひと…」の前で改行をしてはどうか。</p> <p>②「1 社会全体が協働し学び続ける環境づくり」の「豊かな心を育む図書館」に、「読書等に関するセミナー、イベントの開催」を追加してはどうか。</p> <p>③「5 文化資源の保存活用と文化・芸術の振興」に記載の「倉吉に誇りと愛着を持つ子どもの育成」は、「2 創造性を培い、自主性・自立性を養う学校教育の推進」により当てはまるのではないかと感じました。</p>
	<p>・「特別支援教育の充実」に係わり、MIMは今後も継続して実施して欲しい。1年生の現状として、サードになった児童に対しての手立が早期に実施されることは、児童が学習していく上で、また良好な人間関係を築いていく上でとても重要なことだと感じる。</p> <p>・「安心して教育を受ける機会の推進」に係わり、SSWRの活動が少しずつ充実してきているのではないかと感じる。定期的に来校いただき、児童の様子を見ながら助言をいただいた。個別の支援を行う上でも相談させていただき、状況に応じて支援していただく体制づくりに貢献していただいたことは、心強く感じている。</p> <p>・「倉吉に誇りと愛着を持つ子どもの育成」に係わり、コロナ禍の状況にありながらリモートでの菜の花報告会を実施していただいたことはよかった。自分たちの学校だけの取り組みに終わらず、全市の学校が実施しており、自分の学校での取り組みをさらに充実させていきたいという意欲を、参加した児童を中心に持つことができた。また、中学校区での話し合いをリードしていた中学生の姿にも刺激を受け、身近なロールモデル・目指す姿として意識していた児童が多かった。</p> <p>・学校教育と社会教育が課を超えて連携していくという趣旨はわかるが、この資料1の形でいくとすれば、学校教育審議会としてではなく、倉吉市教育審議会を立ち上げていくという方向性があるのもよいのではないかと感じる。</p>
2	倉吉市児童生徒の学力・学習状況に関すること
	<p>・ICT、GIGAスクール構想を掲げられて、IT機器が導入されましたが、子どもたちの脳の発達を促進していくためには、基礎基本の自分の身体を使って読むこと、書くこと、聞くことをおろそかにしてはいけないと思います。アナログ体験がデジタル機器の使用を豊かなものにできるのではないのでしょうか。</p> <p>・小学校では、それほど差がない内容が、中学校になって伸び悩むのはどうしてか考えてみる必</p>

	<p>要があると思います。周囲の中学生を眺めてみるに、図形や証明は不得手のようです。平面図でも回転したものや立体の比較等は難しいようですね。幼児期からの遊びが影響しているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器の使用についても家庭によって取り扱いや使用環境の違い、格差も出てくるのではないかと思います。
	<ul style="list-style-type: none"> ・親の SES（社会経済的地位）によって子どもの学力格差が顕著になると言われている。しかも幼児教育から高校までずっと続くとの研究結果も出ている。学力調査では平均点・分布だけでなく、家庭の SES と関連させて、SES 下位の子どもを引き上げる努力を各学校に求めたい。個人情報に関わることなので、教育委員会での調査・研究はなじまないと思うので。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の低下があってはならない。先生方の努力はありがたく思うが、より一層のがんばりを求めます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査では、ほぼ平均レベル、とっとり学力・学習状況調査では、ほとんどの学年、教科で県を上回っており、一定の成果を上げているのではないかと考えられる。
<p>3 倉吉市児童生徒の問題行動及び不登校に関すること</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動及び不登校に関しては、子ども本人の問題や課題もあると思いますが、家庭の内情（保護者の課題・問題）も含めて、福祉とつながり策を考えてみる必要があると思います。 ・コロナ禍で地域の機関と学校・子どもたち・家庭と関係が切れた感があります。再度、つながり直したいと思います。
	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動の項目にはなっていないが、授業規律に安定感がない場合、さまざまな問題行動を誘発する危険性があると思われる。おとなしい子、気の弱い子が不登校になる可能性も出てくると思うので、はっきりした問題行動の前段で機動的に対処すべきだと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの機会を失うことがないように、親・本人に伝えてください。
	<ul style="list-style-type: none"> ・その他の項目にネット関連のものが多いため、文章の付け加えと、次年度より単独の項目をつくってはいかがでしょうか。 ・不登校（中学）出現率の、鳥取県全体との開きはどこに問題があるのか。米子市はどうでしょうか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒間暴力が R2 は年間 49 件、R3 は 12 月までで 24 件と例年に比べ多い状況が続いている。コロナ禍にあって、黙食が続くなど生活場面でいろいろと制約がある。そんな中でちょっとした言動でトラブルになりやすくなっているのではないかと感じている。現状分析し、対策を講じていく必要があるのではないかと。 ・いじめ件数が昨年までは増加傾向にあり、要因の一つとして学校現場での認知が進んでいるのではないかと捉えていた。本年度は 12 月までで 76 件ということであり、最終的な件数を見ながら、ていねいに分析していく必要があると感じる。 ・不登校児童生徒の増加傾向が続いている。学校でも早期対応、児童・家庭支援を続けているが、今後も相談機関、福祉機関等と連携して粘り強く取り組んでいく必要がある。 ・河北中校区は、市の中学校区の予算を活用して広島大学栗原教授に学び、MLA を続けている。SEL や PBI S など各校の取り組みが今後充実していくのではないかと感じる。成果に結びつくようになることを期待している。市の中学校区の事業の継続は大変ありがたい。

4 その他	
	<p>・社会が変化して、多様性(ダイバーシティ)と包摂(インクルーシブ)がキーワードになる時代が来ました。18歳成人となり、国際社会も危険をはらみながら変化をしています。主権者教育がさげばれて久しいのですが、若者の社旗や政治・経済に対する参画意識を育成していくためにも学ぶことが必要だと思っています。</p> <p>・様々な点で社会教育・生涯学習と連携・連動させることを考えていただければと思います。この間、地域福祉を考える学習をしたところ、2030年には、85歳以上の高齢者世帯が、例えば、明倫、小鴨、高城、北谷、社では10軒中8軒を占めるという推計が出されています。超高齢化社会を見据えての学びをどうするのか考えて行くところに立っていると思うのですが。</p>
	<p>・配布資料を読み解くことが難しいです。(参集型開催ができない場合)できればオンラインでの開催を希望します。</p>
	<p>・ウクライナで幼子・子どもたちが学ぶことを奪われ、苦しんでいることを、対岸のこととして扱うことなく、だからこそ、学ぶことの重要性を伝えてください。</p>
	<p>・コロナや天候などさまざまな警報・注意報への対応も、これまでに経験したことの無いものも増え、日々苦慮されていることと思います。皆様お疲れを出されませんよう、気をつけてお過ごし下さい。</p>
	<p>・7月の第1回審議会で、令和2年度の実施報告と令和3年度の実施計画が示されていた。第2回審議会でいただいた資料は数値データであり、特に会議が開催されない状況で、その要因等について聞けないまま意見を求められても答えにくいのではないかと思います。できれば、第2回審議会で令和3年度の実施報告(年度末見込みでもよいので)があると、市としてこんな取り組みをしているので、こんな状況になっているということを聞きながら、次年度に向けてさらに充実させていくことができるのではないかと感じる。</p>